

2024 年度 3 月学校関係者評価報告書

実施日：2025 年 3 月 14 日（金）

2025 年 3 月

北斗会看護専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校長挨拶

昨年4月より学校長として試行錯誤しながら、運営に携わってきました。この会は、年2回行われ、改善点など忌憚のないご意見をいただき、貴重な機会です。1年間やってみて、また次年度も授業等やらせてもらって考えるところもある。国家試験を終え、結果はこれからであるが、意外に頑張ってくれたと感じている。今年度も合格率100%となって欲しい。先日は卒業式を終え、ほっとしているところでもあります。

本日は、様々なご意見を参考にさせて頂きたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 委員及び参加者

<学校教職員>

学 校 長 深尾 晃三、 学校事務部長 濱田 潤
副 学 校 長 石川 美佐子、 実習調整者 小林 愛
学 生 担 当 安部 由美子

…計5名

<委 員>

委員長 学校周辺の地域に精通する地域住民または地元企業関係者として
未来SS義塾 豊中市保護区保護司会 地域での育成活動を行われている
山本 和央 様

関連業界等関係者として学校周辺の病院施設また、卒業生の受け入れ実績を有する病院の管理者である

医療法人篤友会 坂本病院
副看護部長 山口 順子 様

教育に関する分野の有識者として

高槻市医師会看護学校
副学校長 辻 節 子 様

…計3名

よろしくお願いいたします。

3. 本日のスケジュールについてレジメに基づき説明

—本日の議題について—

- 2024 年度 自己評価概要説明
- 2024 年度 重点目標の評価概要説明
- 意見交換
- 説明についての質疑応答
- 課題についての討議

4. 資料に基づき自己評価の概要説明

【今年度の評価と次年度に向けた課題と取り組み】

- 1) 今年度は1年生、2年生ともに新カリキュラムで運営された。学年間の交流や協同学習は愛校心や思いやりが育ち、学びへの動機付けとして効果が高い。「思いやりと感性あふれる看護師を育成する」本校の教育目的を達成できるよう、今後も学年間の交流や協同学習を取り入れる。また、授業で行われる評価について学生が学習内容を到達でき、主体的に学べることをねらって、より具体的となるように見直しをする。
- 2) 次年度は新しく教員が増える。また、役割の変更も計画している。構成メンバーが変わる中でも教育理念や教育目的が理解され、学生のディプロマポリシー到達に向けて、運営されるように努力したい。本校が大切にしている教育について、教職員全体で共有、浸透することが大切であると考え、2025年度重点目標は前年度に引き続き「全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場～看護専門職としての学生一人一人を大切にした教育～」を挙げて取り組む。
- 3) 2025年度は中期目標5か年計画の2年目である。「北斗会看護専門学校が目指す感性あふれる看護師を育成する看護教育実現のためのパートナーシップ」を願い、教職員間で「本校の強み」を共有し、入学時より教職員全体で取り組みたい。学生との関わりを中心とする学生担当教員間および講師とのコミュニケーションを充実させ、役割体制の充実、教育力の向上を図る。

4) 今年度「受験者倍率 1.25 倍」の目標は達成できなかった。少子化に加え、准看護師養成所の閉校や看護師 2 年課程の閉校は続き、全国的な学生充足率の低下が進んでいる中、教育の質の確保とともに、学生数を確保することは課題である。より積極的な働きかけが必要と考える。

(1) 定員 40 名を満たす

- ・3 月四次入試を追加し、入学希望者を確保する
- ・オープンキャンパスの参加者を増やし、本校の認知度を向上させるために SNS を活用し、学校生活の情報を発信していく

(2) 学校訪問の拡充

- ・法人と協力し学生及び将来法人職員となる奨学生のアナウンスの機会を増やす
- ・入学生の出身校への訪問
- ・准看護師養成所への学生の様子を伝える機会を増やす

5) キャリア教育の充実

希望者就職は 100%であったが、大阪府下の就職については 80%以上を達成することができなかった。今年度はキャリアガイダンスを早め、業者と連携した支援を行った。次年度も学生の反応に応じてキャリア教育を充実させていく。

(1) 希望者就職 100%

(2) 大阪府内の就職率 80%

(3) キャリアガイダンスの充実とキャリアデザインサポート（キャリサポ）の充実

5. 重点目標の説明 —資料に基づき重点目標と計画の概要説明—

2024 年度 重点目標

全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場
～看護専門職としての学生一人一人を大切にした教育～

- ①授業計画の立案、授業評価を教員間で行い情報の共有と教育内容の発展を図る。
- ②学校行事を従来に近づけ、学生間、学年間の交流を図り思いやりと感性あふれる教育場面の充実を図る。
- ③基礎学力の向上に向けて支援する。
- ④教員一人一人のセルフマネジメント能力の向上により教育の質を高める指導力の向上

方針・目標 1. 授業計画の立案、授業評価を教員間で行い情報の共有と教育内容の発展を図る。

<評価と課題>

1. 担当科目の授業計画、授業案を立案し、会議で意見交換する。

- ・相談することでよりよい教育につなげていくことができ、視点が広がりつつあると感じる。教員及び講師を含め、連携を図る。

2. 授業研究、リフレクションのために互いの授業の参観や検討会を行う

- ・授業計画については会議で検討している。今後も授業の評価を充実させる。

3. 2024年度の実習では新カリキュラムの運営となり内容や時間が大きく変わる。そのため、実習要綱、指導要綱を見直し、実施に向けて要綱作成や準備をすすめ、臨床現場と連携する。

- ・実習の実時間が短縮されることで、学習の到達の難しさはあった。実習前の授業の学びを充実させることや実習後の振り返りの時間を有効に活用することで、到達度の向上につながる。実習は授業の一環であり、つながりを持たせられるように授業計画していく。
- ・新カリキュラムの卒業生となった。学生の反応をとらえ、今後も評価、修正を進めていく。

4. 2024年度デジタルテキストの導入に向けて周知、準備する。

- ・学生のスキルには個人差が大きい。デジタルテキストをうまく使っている学生もいるが、一部のみしか表示することができず、俯瞰できないところは課題。
- ・電子テキストを使用する場合、学生は閲覧するための時間がかかり、授業の進行が遅くなる。状況を確認しながら進めていくことは引き続き必要である。
- ・臨地実習における電子テキストの使用については、SNSの制限が必要となる。情報リテラシーや個人情報の保護についてなど、看護倫理を基本として学生が学ぶべき課題は多い。

5. 学生担当制による運営を充実させる。

- ・今年度から従来行っていた学生担当制については現在では学生に浸透している。
- ・卒業時のアンケートを見ると、学生を見る視点が異なる複数の教員がクラスの状況を見守る形で、気になる学生がいれば情報共有し、支援する体制はできていたと考える。
- ・教員は授業時間が多く、実習指導もあり、学生担当間での情報共有、ミーティングの時間を作ることが課題である。

- ・様々な経験と強みを持った学生担当教員が相互に支え合い、一人ひとりの教員の指導力を発揮するためにどうすればよいか今後の課題である。

方針・目標 2. 学校行事を従来に近づけ、学生間、学年間の交流を図り、思いやりと感性あふれる教育場面の充実を図る。

<評価と課題>

1. 年間の学校行事については、学校の教育目的を目指した、教科外活動としてのねらいを持つ。

- ・数多くの学校行事が開催でき学生の成長の機会となった。
- ・行事活動を通して、ディプロマポリシーに近づくことができるよう、今後も支援していきたい。

2. 学年間の学びの機会を共有することで誠実な学びあい、互いを尊重、尊敬する姿勢を持ち、愛校心を持てる関係性を築けるように働きかける。

- ・意義ある学習の機会となった。

3. ビジョンワークやクラス目標、係りなどの活動や他者との交流を持つ中で様々な思いに触れ、考える機会や自己の課題を感じる機会とする。

- ・入学時から始まる「キャリアマネジメント」のビジョンワークは今後の学校生活の過ごし方や学習に向かう姿勢の意識づけには重要な授業である。学生担当で共有し、2年間の有効な学びとなるように計画していく。
- ・学外活動では47回生は授業として、「社会システムと健康」では敬老の日のボランティア活動、「精神看護学」では病院のロータス運動会参加、「地域・在宅看護論」では千里メディカルラリーに参加し、力を発揮した。学生は参加するまでのプロセスを踏むことで、学びが多く、充実感を持つことができた。今後も継続し、学び、成長を支援していく。

方針・目標 3. 基礎学力の向上に向けて支援する。

<評価と課題>

1. 1年生についての支援

- ・自分自身で学習する習慣は今後の学習する基盤となる。これは国家試験に向けた学習にも

通じている。

- ・基礎学力の低い学生については、もともと学習習慣が身につけていないため、安易に暗記する方法で学習し、効果が得られているとはいえない。これらの学生をどのようにして専門職としての学びの軌道に乗せていくかは今後も課題である。
- ・2年次へのステップとするために、1年次3月には国家試験ンガイダンスを行う。

2. 2年生についての支援

- ・看護師の国家資格を得るために必要な国家試験の合格を目的に自主グループの学生で構成する国家試験対策チームを立ち上げ、学生自身で運営、主体的な取り組みをサポートする。
- ・2年生の進級前にはクラスの中から国家試験対策委員を決め、国家試験に向け取り組んだ。全員問題集を購入し、全員が取り組む決意をし、放課後は「北斗塾」という名をつけ学習会を開催した。
- ・今年度の国家試験は昨年以上に難易度が高いと言われている。
- ・次年度も学生の状況を見て業者によるセミナー、春休み前からのクラスでの学習会への導入、基礎学力の低い学生に対しての支援、それぞれに状況を把握し計画していきたい。

3. 今年国家試験度再受験の学生の支援

- ・対象者は全模擬試験の受験を希望しており、国試対策担当教員との連絡も密に行ない、相談にのっていた。
- ・気兼ねなく学習のために学校へ来校している。
- ・国家試験を受けることに対するプレッシャー、ストレス、不安感は新卒者以上に大きい。精神的サポートは必要である。結果に期待したい。

(※第114回看護師国家試験新卒、既卒者全員合格となった)

方針・目標 4. 教員一人一人のセルフマネジメント能力の向上により教育の質を高める

<評価と課題>

1. 教職員一人一人が自分の役割を明確にし、自分の強みを発揮できるよう互いに働きかけ、声を掛け合える環境を作る。
- ・教員の役割は明確になっているので、それぞれが責任を果たしていると考えられる。

2. それぞれのプロジェクトチームで企画した計画を、全体に共有し、教育活動を発展させる。

・教務会で情報の共有ができています。

3. 教育力向上のための研修に積極的に参加する。

・研修参加への希望がある場合は申し出をし、研修会の参加から学びを共有できるようにしていきたい。

4. 互いに学びを深められるようリフレクション力を高める。

・リフレクションの時間は少ないように感じる。授業の改善や実習指導など、教員の困りごとを改善するためにもリフレクションの機会を持ち、リフレクションする力を高めていくことは学生の効果的な学習や実習方法を検討する上では必要と考える。

5. 各教職員は自ら進んでコーチングを受け、ねらいに沿った学生支援、授業、学校運営に参加、実践する。そのためのサポート体制を充実させる。

・必要時はコーチングを受けることはできていると考えている。

6. 一人一人が体調管理に不安を持つことなく、仕事に臨めるよう調整する。

・年度途中での退職者が出ており、オーバーワーク気味であるが、それぞれがセルフマネジメントできるような環境であって欲しい。

7. 計画的な課題への取り組み、時間管理を意識する。

・業務の煩雑さがあり、計画的な取り組みや時間管理ができていない。

・新カリキュラムが軌道に乗るまでは、評価修正も頻繁に行われることが予想され、教員の時間管理も難しいところがある。

・初めて担当した授業などは準備が不足していた。授業計画を共有し、意見交換することと共に、計画的に授業計画に取り組んでいきたい。

8. 各自がリフレッシュできるための時間を確保する。

・各自がセルフマネジメントすることが必要。

次年度の重点目標としては、教職員への浸透をねらい、引き続き、

「全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場～看護専門職としての学生一人一人を大切にしたい教育～」

を重点目標に教育内容の充実、浸透を図り、教職員が一丸となって発展させていきたい。

6. 意見交換

- (山本) 教員の年度途中の退職は何名か。定年や決まっていたところか。
- (石川) 退職者は3名となった。中には定年での退職、また、前年度から決まっていたという教員がいる。どこの学校も教員の確保に苦労しておられる。
- (辻) 本校でも年度途中で療養を必要とした教員がおり、調整はなかなか難しい。
- (石川) 学生のアンケートを見ると「教員に見守られていたと感じる」「楽しかった」という意見も多く、2年間の学びは充実していたのかなと感じる。
- (山本) 「北斗塾」など満足度が高い様子が分かる。一方でグループワークについてあまり良くなかったという意見があったが、学びは大きいので、グループワークをする意義を十分に伝えることは必要かと思う。
- (山本) おっしゃるように公立高校も定員割れしている。これは、私立の設備が整っていることで、受験生が私立に流れていることでもある。同じように、学校のトイレがいまだに和式と言うのもどうだろうか。入学希望者は学校の設備を見て決めるところも大きい。施設設備が整っていることと、入学希望者の因果関係はあるのではないかと考えている。オープンキャンパスでは施設の充実を売っていくことも必要ではないだろうか。
- (石川) 学生のアンケートの満足度はハード面については低い結果となっている。
- (濱田) 病院でもまだ和式トイレがある。全体を見ての検討となる。トイレを設置することにも様々な規制や調整があつてなかなかすんなりとはいかないところがある。順次ということで調整していきたい。
- (山口) 病院見学でもやはり設備が整っていることは紹介して、入職希望者には来てもらえるように考えている。学校も同じですね。
- (辻) 今年度本校でもオープンキャンパスなど参加者が減ってしまった。今までにないことだった。2次募集を行った。今後は受験者が減ってくるだろうと思う。定員を切るようになれば、運営ができなくなる。
- (石川) 大阪府下の准看護学校も閉校してきている。現在は大阪府外からの受験生が増えてきた。今後も府外の学生への獲得、アプローチが必要と思われる。
- (山本) 今後は中長期的なビジョンを見直していくことも必要かもしれない。
- (石川) 5か年計画の中期目標をあげて次年度は2年目の取り組みをしているが、学生確保に向けても検討していきたい。
- (山本) 外国人の学生はいるか。

- (石川) 今年卒業の学生は1名いた。入学に際しては日本語検定1級合格者で准看護師の免許を持っていることなどハードルは高いですが、優秀な学生が入学しています。留学生を受け入れる準備はできている。
- (山本) アンケートにあった「国家試験を意識して授業を受けたかった。全てがつながっていると思った」という意見があったが、これはどのような状況か。
- (石川) 多くの学生が卒業前面接で述べていたことだが、授業の一つ一つがつながっていて、大切だったという事。国家試験の問題を解いているときに感じたという学生もいた。知識をつなげて必要な看護を導き出したり、授業の一つ一つが大切であったり、もっと勉強をしたいと思っている学生もいた。それを卒業前には1年生に伝えたという学生もいた。1年生の初めの時期では授業についていくのに精いっぱい難しいことであるが、後半にかけてくると授業の一つ一つが大切であると気づいてきている。
- (山口) 学校でその時々で必要なところでアンケートをよく取っています。アンケートを見ると先生方と学生と関係性が取れていると思う。教えあう学習や学生が中心で進められているという様子が非常によく伝わってくる。
- (石川) 本日も1年生は1年間の学び、成長のビジョンワークを楽しそうに行っている。
- (安部) 行事や掃除などその意義を説明すると学生はハマって(納得して)一生懸命活動している。やはり、教育目的、目標をしっかり伝えていくことは大切だと感じる。
- (小林) コロナの影響で実習に行けていない学生がまだいる。体験ができていないので、不十分なところは成長過程と考えてみていく。
- (濱田) 学校の事務長と病院の事務局を兼任しているが、外から見える学生の様子など連携して伝えていくようにしている。今後も連携していきたい。設備等については、病院の設備のこともあるので、今後学校の設備についても検討していく。
- (山本) 今年度も地域でのボランティア活動に参加してもらってありがとうございます。引き続き参加していただきたい。
- (石川) 敬老の日のボランティア活動、千里メディカルラリー、病院の運動会など学校外での活動も多く取り入れられている。学生には大変学びが大きい体験となっている。
- (山本) 今後も法人と連携してやっていってください。

評価	学生の教育に対しては満足度が高いが、ハード面に対しては満足度が低い。法人と連携して、入学希望者のニーズに応えられるようにしてください。学生確保を含めて中長期的な取り組みをしていきましょう。自己評価は適切と思われる。
----	---

7. 学校長による総括

様々なご意見を頂き、ありがたく思う。トイレの設備については昨年度も上がっていた。学校は教育の場でもあるので、意識的に取り組んでいけるといい。

2年生が1年生に教えるという雰囲気はとても良いと思う。授業という面だけでなく、様々な体験、コミュニケーションを通して学んでいく機会は貴重だと感じた。

国家試験についても同様に先生に教えてもらった、友達に教えてもらったなど日々の関りを通して思い出し、問題が解けていく。一緒に勉強しているとわかってくることがある。

運営という事では、次年度に向けても努力していきたい。ありがとうございました。

8. その他

次回の会議日程

2025年6月6日（金）14：00～

本校にて 2025度計画表提示予定